

ゴミも拾えないやつは、チャンスも拾えねえ

1. 教育を考える一言

「ゴミも拾えないやつは、チャンスも拾えねえ」

2. 背景

高校の部活のコーチに言われた一言です。高校時代、私たちのバスケットボール部では必ず朝に宿舍の周囲をゴミ拾いしてまわるという習慣がありました。1,2年生のときは先輩に言われて、やっていましたが、最上級の3年生になったある夏の県大会、「なぜ大会に来てまで…」と思うようになっていました。前日の試合の疲れが少々残っていたり、朝早く起きるのが辛かったり、勝ち進むにつれてどうしても足取りが重くなってきていました。それが表情に出でていたのか、見かねたコーチに大会二日目の朝、「ゴミも拾えないやつは、チャンスも拾えねえぞ！！」と喝を入れられました。この言葉は、ずっと素直に自分の中に入ってきました。やらされて行っていた自分に気づき、その日からは「自分から」すすんでゴミを拾いました。結果、その大会は苦しい試合が続きましたが見事優勝し、全国大会に出場することができました。

3. 考察

ゴミを拾うには、まずゴミを探しに行かなければいけません。そして周囲に気を配り、目を凝らして探さなければなりません。その際普段目を向けないようなところも探さなければなりません。見つけたら腰をかがめて拾わなければなりません。このように探すとたくさん見つかるものです。もし拾わないのであれば、そのゴミたちは誰かが拾うまで、そのへんを転がり続けます。

これをチャンスに置き換えてみてください。チャンスは待っていても来てくれるわけではありません。自分（達）の努力があつて、つまり自発的に行動を起こすことで、初めて見えてくるものです。それを必死に掴みにいくものなのです。普通に目を凝らすだけでは見つかりません。広い視野を持って探さなければなりません。そうして目を凝らすと周囲にチャンスは必ずあります。放っておくとコロコロとその辺を転がり、ほかの人にとられてしまうのです。

つまりゴミを拾う過程と、チャンスをモノにする過程はほぼ同じものなのです。普段の生活で簡単にできるゴミ拾いを、面倒くさがったり、拾いに行っても綺麗だったと拾わないでいる人間が、来るべきチャンスを見つかったり掴んだりすることができるわけがないのです。これは決して勝負の世界のチャンスだけに言えることではありません。人生を生きていく中で来るチャンス全てに言えることです。教師が学校教育のなかで教えることは教科に沿ったことだけではないのです。このようなことを教えていくことが教師に求められる教育だと私は考えています

引用参考文献

特に参考にした文献などはありませんが、筆者がこの言葉に出会った世界観を共有できる文献を載せておきます。これらの本にもたくさんの教育を考える一言が書いてありますので、是非みなさん読んでみてください。

井上雄彦『スラムダンク』集英社、1990年

日向武史『あひるの空』講談社、2004年